

知求会ニュース

2024年04月

第89号

◎ 博士後期課程 博士号取得、おめでとうございます！

句坂宏枝(国際学研究専攻・12期生)さん(国博第36号)と任晁艶(国際学研究専攻・12期生)さん(国博第37号)が、2024(令和6)年3月22日(金曜日)に一昨年秋授与された梁鎮輝さんに続いて博士(国際学)の学位を授与されました。なお、句坂さんの論文要旨などは次号の「博士録64」に、任さんの論文要旨などは91号の「博士録65」に掲載されますので、併せてご一読下さい。

これまでの国際学部・国際学研究科(修士課程および博士前期課程)出身者の学位取得者は、博士(国際文化)(東北大学)2名・博士(文学)(名古屋大学)/(筑波大学)/(東北大学)4名・博士(人文科学)(お茶の水女子大学)1名・博士(人文学)(パリ東大学)1名・博士(芸術学)(筑波大学)1名・博士(社会学)(一橋大学)2名・博士(農学)(東京農工大学連合大学院)2名・博士(国際学)(宇都宮大学)25名・博士(経済学)(名古屋市立大学)1名・博士(観光経営学)(慶熙大学校)1名・博士(人間・環境学)(京都大学)1名・博士(学術)(杏林大学)/(筑波大学)/(東京大学)/(一橋大学)/(法政大学)6名・博士(国際開発学)(名古屋大学)1名・博士(国際関係・紛争・平和学)(キングス・カレッジ・ロンドン)1名・博士(経営学)(立命館大学)1名・博士(医学)(自治医科大学)1名の計51名です。(2024年4月1日現在)

◎ 博士前期課程、修了おめでとうございます！

2024(令和6)年3月22日(金曜日)午後1時00分から5号館A棟4階大会議室にて、2023年度学位記授与式が開催されました。

今回の最後の修了者は、国際交流研究専攻の第15期生の後藤(白田)直子さん(国修第565号)の1名でした。これで、国際学研究科 博士前期課程は終焉を迎えました。なお、「フォーラム」コーナーに後藤(白田)さんの所感が掲載されていますので、併せてご一読下さい。

◎ 修士課程、修了おめでとうございます！

国際学研究科博士前期課程の後継である修士課程 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻グローバル・エリアスタディーズプログラムにおいて修士(国際学)7名および多文化共生学プログラムにおいて修士(学術)16名が誕生しました。

◎ 教職員人事異動

磯谷玲 国際学部教授

磯谷玲先生が、4月1日付をもってデータサイエンス経営学部へ異動されました。国際学部には1998年4月から25年の間在籍され、多くの方が先生にお世話になったことと思います。大変お疲れ様でした。

KIM Ilju 国際学部助教

KIM Ilju 先生が、3月31日をもって退職されました。転出先は石澤先生がいらっしゃる上智大学で、所属は国際教養学部です。短い間でしたが、新天地でのご活躍を祈念しています。

奈良橋真 係長

奈良橋真さんが、2024年4月1日付で峰キャンパス事務部事務長補佐に異動されました。大変お世話になりました。なお、峰キャンパス事務部共同教育係から後任に鈴木克彦係長が着任しました。

◎ 掲載記事紹介

1. 下野新聞（令和5年12月20日）4面に、「多言語翻訳システム学ぶ」「宇都宮大 教師の卵、事務連絡体験」と題して、**若林秀樹**先生(国際学部客員准教授)の記事が掲載されました。
2. 朝日新聞（令和6年1月21日）7面に、「フォーラム 外国ルーツの子どもたち」コーナーにおいて、「言葉のせいにするなら ICT 活用を」と題して、「学校向け多言語ツール発案「特別な存在にしない」試み」も内容で、**若林秀樹**先生(国際学部客員准教授)の記事が掲載されました。
3. 読売新聞（栃木版）（令和5年12月22日）22面に、「学校メール翻訳「簡単便利」と題して、「宇大で体験授業」「保護者連絡9言語で」の内容で、**若林秀樹**先生(国際学部客員准教授)の記事が掲載されました。
4. 内外教育（時事通信社）（令和6年2月6日）2-3頁に、「あすの教育」コーナーにおいて「外国人家庭との言葉の壁、ITで解決」と題して、「外国人の散在化と学校教育現場」「多言語連絡帳「イートラノート」」の内容で、**若林秀樹**先生(国際学部客員准教授)の記事が掲載されました。
5. 下野新聞（令和6年1月18日）19面に、「「やさしい日本語」活用を」と題して、「共生へ市民40人が学ぶ」「小山で講座」の内容で**神山英子**さん(国際社会研究専攻第7期生)の記事が掲載されました。
6. 下野新聞（令和6年1月18日）19面に、「日本語教授法 20日から講座」「小山市、全5回」と題して、**神山英子**さん(国際社会研究専攻第7期生)の記事が掲載されました。
7. 毎日新聞（令和6年1月23日）17面に、「外国人との相互理解に」と題して、「小山・「やさしい日本語」講座」「分かりやすい表現を解説」の内容で**神山英子**さん(国際社会研究専攻第7期生)の記事が掲載されました。

8. 下野新聞（令和6年2月9日）2-3面に、「夜間中学 「対象広く門戸開放を」 ニーズ強く、設置具体化」と題して、「多様な学びの背中押す 地域課題解消へ手だて」の内容で田巻松雄先生(宇都宮大学名誉教授)の記事が掲載されました。

9. 下野新聞（令和6年2月22日）3面に、「足尾の光と影 歴史語り継ぐ」と題して、「「古河」元労働者も講演」「宇大で公開セミナー」の内容で「環境と国際協力研究室」の高橋若菜先生(国際学部教授)らの記事が掲載されました。

10. 下野新聞（令和6年3月24日）3面に、「希望って何ですか ○続・貧困の中の子ども○」コーナーで、「イメージを変える」と題して、「誰でも来られる「食堂」に」の内容で熊倉百合子さん(国際学研究科国際交流研究専攻第9期生)の記事が掲載されました。

◎ 国際学部だより

1. 福島民友新聞（令和6年3月11日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「世界を平和にする農業」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

2. 福島民友新聞（令和6年3月12日）11面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「幼少期から海外に興味」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

3. 福島民友新聞（令和6年3月13日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「留学経験 成長した自分」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

4. 福島民友新聞（令和6年3月14日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「紛争は悪だと思いか」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

5. 福島民友新聞（令和6年3月15日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「紛争解決へ現地で奮闘」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

6. 福島民友新聞（令和6年3月16日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「研究励む中 起きた震災」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

7. 福島民友新聞（令和6年3月19日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「アフリカで受けた感謝」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

8. 福島民友新聞（令和6年3月20日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「自分らしさ」取り戻す」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

9. 福島民友新聞（令和6年3月21日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「SNS 契機に新天地へ」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

10. 福島民友新聞（令和6年3月22日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「平和考える大事な仲間」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

11. 福島民友新聞（令和6年3月23日）4面に、『ひと マイストーリー』のコーナーで「目標実現 これから本番」と題して、菅野直和さん(国際学部国際社会学科第7期生)の記事が掲載されました。

◎ 国際学部設置30周年記念事業特設サイト案内

[卒業生に関わる企画](#) | [国際学部設置30周年記念事業特設サイト](#) | [宇都宮大学 国際学部 \(utsunomiya-u.ac.jp\)](#)

吉葉恭行氏 / アジモフ サルワルジョン氏 / 家住教志氏 / 王希璇氏 / 田中えり氏 / 佐々木哲夫氏（国際学研究科国際社会研究専攻第5期生） / 三澤拓巳氏 / マナラグ・マリキット・グルエット氏 / 秋元明日香氏 / 椎名毬子氏 / 大畑美優紀氏（国際学研究科国際社会研究専攻第1期生） / 庄司和幸氏

◎ 放送大学栃木学習センター面接授業

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 日英比較を通して学ぶ英文法 | 2024年05月25日（土）1時限～4時限 |
| | 2024年05月26日（日）1時限～4時限 |

木村 崇是先生（国際学部助教）

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 2. 効果的な英語学習のためのスキル | 2024年06月15日（土）1時限～4時限 |
| | 2024年06月22日（土）1時限～4時限 |

バンヴェル ローリー先生（国際学部准教授）

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 3. 平和構築入門：紛争と和解 | 2024年04月20日（土）1時限～4時限 |
| | 2024年04月21日（日）1時限～4時限 |

藤井広重先生（国際学部准教授）

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 4. ロシアの文化と文学 | 2024年04月13日（土）1時限～4時限 |
| | 2024年04月14日（日）1時限～4時限 |

大野斉子先生（国際学部准教授）

研究室訪問 59 第9号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

「言語の不思議の探究」

国際学部 木村 崇是

私の専門は言語学と呼ばれる分野ですが、その中でも人間言語の文法の謎を解明する理論言語学と、構築された言語理論を応用し、実験等を行って第二言語獲得のメカニズムを明らかにする応用言語学の2つが主な専門です。ここでは、特に理論言語学に絞り、その分野ではどのようなことを目指してどのように研究を行っているのかについて、簡潔にお話ししたいと思います。

私が研究しているのは、とりわけノーム・チョムスキー(1928-)という言語学者が提唱した生成文法という言語理論に基づいていますが、その思考法はできる限り物理学や生物学を始めとする自然科学に倣います。

言語の文法規則というと、文法書を思い浮かべる人が多いと思いますが、文法書は単に個別の文法規則を記述したに過ぎず(例：英語の **wh** 疑問文では、**wh** 語を節の先頭に置く)、正確性に欠ける場合が多いことに加え、言語の本質について何か本質的なことを語るわけではありません。もちろん、個別の文法規則を記述というのは理論言語学研究においても重要な仕事ですが、それは言語研究においては、単なる第1のステップに過ぎないのです。理論言語学者のメインの仕事は、もっとワクワクするものです。

理論言語学者の仕事は、まず個別の文法現象を観察することから始まり、その蓄積から一般法則を見つけます。一般法則を見つけるのは、それだけで大きな仕事ではありますが、大事なのはここからです。例えば、「英語の **wh** 疑問文では、**wh** 語を節の先頭に置く」という英語の **wh** 疑問文に関する一般法則を見つけたら、言語の本質に迫るためには、「なぜ」そのような規則になっているのか、すなわちその文法現象に対する「説明」を考える必要があります。英語の **wh** 疑問文のように、語を前に移動させる規則は、他にも様々な構文に見られる(例えば、文の主語、関係代名詞の先行詞、強調系の構文など)ので、それら一般に共通する語の移動の理由がきっとあるはずで、興味深いことに、数千あると言われる人間言語の数々には、実は、どの言語の基盤にもなっている有限個の大原理があるとされており、それが文法現象に対する説明の源となると考えられます。理論言語学者は、導き出した一般法則を深掘りし、その背後にある説明の源である大原理に迫っていくのです。

また、大原理や文法現象への根本的な説明が見つかったとしても、より簡潔でエレガントな説明(つまり、余計な仮定をできるだけ少なくして、できるだけ多くの現象を説明できる仮説)が見つければ、そちらが採用されます。そのようにして、言語理論は絶えず進展しています。いわゆる文系科目の1つとして、文学部などに配属されることの多い言語学ですが、実は、その研究方法や思考法には、物理学を始めとする自然科学にインスピレーションを受けている部分が多々あるのです(例えば、上で紹介した、より優れた説明に

ついでに、オッカムの剃刀と呼ばれる、自然科学で一般的に採用される考えです)。

実際に理論言語学者がどのようにしてそうした大原理の解明に進んでいくかという、とある文がその言語の文として認められるか否かを判断する（もしくは、自身が母語話者でない場合、別の母語話者に判断してもらう）のが基本です。ただし、言語学者が考える例文は、これまでの研究の蓄積に基づいて、複雑かつシステムティックなものであるため、そのようにして作られた文の多くは、通常の日常会話ではあまりお目にかからないようなものであることが多いです。しかし、不思議なことに、言語直観が鋭い母語話者（特に、訓練を積んでいる理論言語学者）であれば、そのような初めて見る文であっても、容認可能と判断できたり、微細な文法的な違和感を感じ取ることもできます。

例えば、これは比較的シンプルな例ですが、「学生がゲラゲラと2人笑った。」という文と「学生が舞台上で2人踊った。」という文では、前者の方が少しだけ悪く感じられます（...か?）。「学生が荷物を車で3台運んだ。」という文であれば、これらの文よりも遙かに悪くなるのが感じられるでしょうか？理論言語学者がそのような文法的良さ・悪さの対比を発見した時、日本語の数量表現の文法規則として記述するだけでなく、一見無関係の他言語の無関係に思われる構文などに同じようなパターンを見つけ、そうした手がかりを元に、すべての人間言語に見られるような大原理の発見へと繋がる道を探っていくのです。

ガッツリ理論言語学の話をする、いわゆる文系専攻の中には思考停止してしまう学生も多々います。実際、チョムスキーは元々数学専攻で工科系の大学（MIT）の教授でしたし、世界で活躍する理論言語学者にはMIT 卒業生や数学、コンピューターサイエンス専攻出身者が多いことも事実ですし、自然科学に馴染みのない人が敬遠しがちなのはやむを得ない部分もあります。しかし、言語には様々な顔があり、私のような典型的な文学部出身者でも存分に楽しめる分野ですので、学生や専門外の人たちに対して、どのように理論言語学の魅力を伝えるかというのは、研究者そして教員としての私の今後の課題です。

（2024年3月11日原稿受理）

博士録 64 第22号から国際学部、国際学研究科に係る同窓生に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

知究人 37 第9号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。

海外だより 35 第27号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。今回は初めて英日併記を試みました。

「世界平和を求めて、ケニアのストリートへ」

堀部 聖人

私は、JICA 青年海外協力隊の「青少年活動分野」で 2023 年 1 月より「ケニア」に派遣されています。ケニアは東アフリカに位置しており、日本の 1.5 倍の国土を誇りますが、人口は日本の半数以下の 5,100 万人程度です。しかし、人口がここ 60 年間で 5 倍近くに増えており、急速な経済発展を遂げる一方で、都市部と農村部の貧富の差が拡大しています。そのため、都市部の周辺には数々のスラムが形成され、ストリートで路頭に迷う子どもや若者が増えており、大きな社会問題となっています。その中で、私の協力隊としての任務は、「ストリート出身の若者の自立支援」に携わることです。

アフリカというと「暑い！」とイメージされる方が多いと思いますが、私が派遣されているエルドレットは標高が 2,200m ほどあり、年間を通してかなり涼しい気候です。さらに、エルドレットはケニアで 5 番目に発展している都市であり、近くに高地トレーニング場もあるので、マラソン選手たちの大豪邸があることでも有名です。そんな富裕層の生活とは裏腹に、街外れの道を歩くと、ボロボロのトタン屋根の家が続いたり、物乞いする子どもたちが寄ってたかってきたりします。そんな環境の中、私は配属先の同僚と一緒に、「なぜストリートに若者が増えているのか」をテーマにし、フィールド調査と原因分析を行っています。

さらに、私はストリート出身の若者を積極的に受け入れている職業訓練校に配属となっており、「コミュニケーションクラス」と「初級英語&算数クラス」を担当しています。「コミュニケーションクラス」は一クラスに全校生徒の 90 人ほどがおり、この大人数の生徒たちをまとめるのに日々苦戦しています。また、「初級英語&算数クラス」はストリート出身の生徒が 10 名ほどしかいませんが、アルファベットすら書けない子もいれば、簡単なエッセイが書ける子もおり、学力の格差がある中での指導に頭を悩ませています。

自分の活動をケニアだけに絞らず、日本社会にも還元できるように、日本各地の中学校や高校と積極的にオンライン授業をしたり、母校の高校生と協力してキテンゲの端切れを活用したソーシャルビジネスを立ち上げたりしています。色々なご縁からこの一年間に東京、福岡、熊本、鹿児島の学校と計 25 回のオンライン授業を実施することができました。また、キテンゲのソーシャルビジネスの方でも、高校生が中心となり、商品開発、販売、ワークショップを行い、売上を配属先に寄附していただくことができました。

私が行っている活動は小さな一歩かもしれませんが、地道な努力の積み重ねがやがて社会を動かす大きな変化につながっていくと信じています。私の活動を通して、一人でも多くの方が国際協力に興味・関心を持ってもらえると嬉しいです。そして、もし国際協力に興味があれば、ぜひ協力隊に挑戦してみてください。Dream big and always do your best!
Asante sana!

(国際学部国際社会学科 第 17 期卒業生)

(2024 年 1 月 12 日原稿受理)

海外留学今昔 32 第 35 号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 23 知求会ニュース第 41 号より現役学部生・院生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

キャリア指南 15 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2024 年の卯月を迎えて、皆様忙しいことと思います。（原稿集めに苦労しています。）

「日本語教育試験施行試験を受験して」

神山 英子

昨年 12 月に「日本語教員試験施行試験」を受験した。これは、令和 6 年度から実施される「日本語教員試験」の実施に向け、試験の運営・実施を通して明らかになる課題の改善、試験問題の開発や分析、改善等を目的として実施された試験である。文化庁のデータによると、受験者数は 1,242 名で、現職日本語教師（教師歴 3 年以上）、現職日本語教師（教師歴 3 年未満）、養成課程等在籍者（後期）、養成課程等在籍者（初期）と分けて、基礎試験、応用試験でそれぞれに平均点が分析されている。また、施行試験当日は試験のシステム、運営、試験問題についてのアンケートが実施されたが、その結果も公表されている。（文化庁「日本語教員試験施行試験 結果の概要」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/nihongo/nihongo_124/pdf/94009301_03.pdf

そもそも、「日本語教員試験」は、「登録日本語教員」の登録を受けるための国が実施する試験である。「登録日本語教員」に登録するためには、日本語教員試験の合格と実践研修の修了が要件とされており、いよいよ、令和 6 年度にスタートする。私が受験した日本語教育試験施行試験は、そのスタート前の「施行」試験だった。

昨年 5 月に成立した「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律（令和 5 年法律第 4 1 号）」においては、文部科学大臣の認定を受けた日本語教育機関で日本語教育を行う者は登録日本語教員であることが定められている。つまり、日本語学校等で日本語を教えることを生業とする人は必須の試験となる。ただし、現役の日本語教員には、経過措置もルートが複数ある。（文化庁「登録日本語教員の資格

取得に関わる経過措置における日本語教員養成課程等の確認について」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/pdf/93964001_03.pdf

思えば私は、海外は中国で、国内は日本語学校、教育委員会、大学等で留学生や児童生徒に日本語を教えてきた。日本語教員の仕事に携わり 30 年ほどになるが、震災や世界の情勢、コロナなどで学生数などの大幅な減少等、仕事に大きな影響があった。また、この十数年は日本語教師養成にも関わっているが、そうなる、自分のことだけではなく、日本語教師養成講座受講生の将来についても考えることが多くなり、日本語教員の需要と供給のバランスに思い悩むことも嬉しい悲鳴をあげることもよくあった。良い面もそうでない面も含め、社会の状況に振り回されると思うこともしばしばあったが、4 月からの新たな日本語教育に関する法律で日本語教員の立場が確立されていくことを心から期待している。

(国際学研究科国際社会研究専攻 第 7 期修了生)

(2024 年 3 月 12 日原稿受理)

「国際学研究科を修了して」

後藤（白田）直子

皆様こんにちは。この度、2023 年 3 月に宇都宮大学国際学研究科国際交流専攻を修了いたしました後藤（旧姓 白田）直子と申します。今回、土屋様よりご連絡いただき、修了に際しての所感を綴らせていただこうと思います。

私は、20 年前の 2004 年に国際学部国際文化学科を卒業しました。大学在学中に 1 年間休学し、台湾の国立政治大学語言中心へ語学留学をしました。この留学から 10 年後の 2012 年、私は再び台湾に渡り、約 9 年間滞在しました。再度台湾を目指した理由はさまざまありますが、学部生時代に過ごすことのできた台湾という「地域」についてまだまだ無知であり、より深く台湾を知りたいと思ったということが大きかったのだと思います。この思いをさらに後押ししたのは、2011 年の東日本大震災でした。やりたいことをやらないままでは終わるのはあまりにもったいないと思い、何を決めるでもなく台湾に向かいました。そして、台湾で仕事を見つけ、生活していく中で、台湾をより多角的な視野で見つめたいと思い、大学院への進学を決意しました。

仕事をしながらの進学という無謀な挑戦であったにも関わらず、学生側に常に寄り添うようにご助言・ご指導いただきました松金公正教授に、この場をお借りして感謝申し上げます。

また、進学に際して、長期履修制度を利用することができたため、仕事を続けながら研究にも目を向けることができました。学びたいという気持ちを後押ししていただきました大学の関係者の皆様にも改めて感謝申し上げます。修了までに時間をかけてしまいましたが、奇しくも自分が最後の国際学研究科博士前期課程の修了生となったと伺い、感慨に浸っています。

振り返れば、これまでの私の思いを貫くことができてきたのは、国際学部・国際学研究科で学ぶことができたからではないかと思います。私は、具体的に目標立てて堅実に実行することが不得手なのですが、それでも、先生方から学び得た知識や、それを見聞することで生まれた好奇心が、一歩ずつ前へ歩ませてくれたような気がします。博士前期課程を修了することができ、今後も自分の中から湧き出るわくわくを信じながら、懸命に歩いていこうと思います。

(国際学研究科国際交流研究専攻 第15期修了生)

(2024年3月26日原稿受理)

国際学部学位授与式から

国際学部

・成績優秀者1名

西城 未来

2022(令和4)年度より、学位記授与式において国際学部長から表彰する賞が設けられました。なお、学部長は中村真先生です。

・国際学部長賞

① Hagiya Corredo Magda Yukari

(2023年度国際人道法模擬裁判退会国内予選 最優秀弁論賞による表彰)

2013(平成25)年度より、学位記授与式において卒業論文を表彰する賞が設けられました。表彰者は以下の通りです。

・最優秀論文賞1名

① Tengku Nur Iqra Binti Tengku Hazizam 「Technological Transfer through Malaysia Look East Policy Education Program」 スエヨシ アナ研究室

・優秀論文賞3名

- ① 宮田 望 「小笠原諸島父島における小農に関する一考察」 阪本公美子研究室
- ② 竹内 佳帆 「日本の海洋安全保障政策と南シナ海問題—米中比との政策比較を踏まえて—」 清水奈名子研究室
- ③ 田所 莉紗 「なぜ日本では地中熱利用が広がらないのか—国際比較、国会会議録言説分析、インタビュー分析をもとに—」 高橋若菜研究室

東南アジア支部だより

第63号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん(国際学部社会学科第1期生・国際学研究科国際社会研究専攻第1期生)が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同

窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019年4月から、年4回から年2回発行（4月1日、9月1日）の変更になりました。

今回の第17号の内容は、1. ごあいさつ 2. 懇談会 3. 新年度特別企画 私を東南アジアへ導いた思い出の『一冊』 4. 連載コーナー トコロ変わればザ★談会（第10回）あなたの目線であなたの住む地域のEV車普及事情を教えてください！ 5. 連載コーナー タイの昨今（第17回）～変わるもの変わらないもの～ 6. 連載コーナー 狙えインスタ映え！？ アジア取材雑記第13回 『“蚊との闘い”最前線』 7. 連載コーナー ～懐かしの一枚～ ともに感じる東南アジア（第13回）カプトムシ 南国タイでもカプトムシです。

EU支部だより

知求会ニュース第38号からイタリア在住の松原真実子さんによる知求会EU支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の49号の内容は、1. イタリア ベネチアで水上パレード カーニバル開催 2. EU支部だより ーお祭りの再開ーです。

編集者のひとりごと

●今年度は、仕事の関係で前橋市と宇都宮市の二重生活をしてきました。契約日の平日に、小中学校を巡回し、土日の週末に帰省する日々でした。移動手段は時間に制約されない自家用車での移動です。片道約100km（ほぼ、宇都宮と上野間の道のり）深夜、または早朝の際には大型トラックが物流を担っているのがよくわかる光景です。例えば、宅配便を考えるとスマホで注文した品物が、即座に物流ネットワークを通じて注文主に届きます。私たちの生活になくてはならない重要なインフラに定着しています。

●筆者は現在、MOS(Microsoft Office specialist)のExcel エキスパートの受験準備をしています。練習がてら、博士号取得者のリストをExcel で作成しテーブルに変換して、ソートを掛けると様々な情報が得られました。国際学部・国際学研究科修士課程および博士前期課程を経て、多くの博士号取得者を輩出した研究室は、以下の通りでした。丁貴連研究室が8名、佐々木一隆研究室・田巻松雄研究室それぞれ7名ずつ、磯谷玲研究室・松金公正研究室がそれぞれ6名ずつでした。先生方の熱意と指導力が多くの研究者を育てたのかも知れません。先生方に大学院同窓会を代表して感謝と敬意を表します。

編集後記：2010年4月26日から知求会ニュースのバックナンバーは国際学部同窓会HP (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっていきます。

同窓会会員の皆様へのお願い：住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。chikyukai@gmail.com

宇都宮大学大学院国際学研究科同窓会